

CC貸加工依頼システム

根津鋼材が独自開発

商社・問屋向け

大手コイルセンターの根津鋼材（本社＝東京都荒川区、根津訓光社長）はこのほど、商社や問屋向けにコイルセンター（CC）貸加工の加工依頼システムを開発し、6月から運用を開始した。システム

ーレス化を実現し、利用者のデジタルトランスフォーメーション（DX）推進に寄与する。貸加工依頼システム「NOW（ナウ）」（Now Order System for Webの略）は貸加工

の受注形態で、システム経由での受発注が可能となった。顧客は同システムを利用することで加工依頼の作成や複数人での情報共有が容易となる。加工予定日や到着予定時刻、リアルタイムの在庫状況などが可視化され、問い合わせの手間も解消される。発注側が作成する母材搬入書や荷渡指図書などもシステム上で自動生成されるため、「お客さま側でのインプット作業をなくせる」（根津社長）などのメリット

がある。同社に貸加工を発注する際は同システムから母材搬入依頼や加工依頼をかけて、母材や加工のデータを入力する。根津鋼材側では母材搬入後や加工後に在庫情報を随時更新し、加工後は加工報告書がシステム上にアップロードされる。配送時は利用者からの出荷依頼を受けると、運送会社にもメールもしくはファクスで搬入依頼書や荷渡指図書が届く仕組みとなっており、運送会社への連

絡業務も簡素化できる。配達完了後はシステムを通じて納品書の電子データを送付する。今月からは配達先で受領書を受け取る際の電子サイン化について、テスト運用を始めた。9月から正式に採用したい考え。電子サインへの切り替えによって、「サインしてもらった瞬間、受領書の電子データが送付され、よりリアルタイムの情報を提供できるようにする」（根津社長）。利用にあたっては、

クラウド型サービスのため、専用ソフトのインストールは不要。利用者側のシステムとデータや機能を共有するAPI連携にも対応する。同社は5年前から「N-CONNECT（つなぐ・つながる）」をテーマに掲げ、一度入力したデータを別の業務に有効利用できる仕組みの構築に取り組み、次から次へとつながっていく速さを追求している（根津社長）。これまでに社内データ

をつなぐことによるペーパーレス化や自社製品の安定した配送、顧客とのシステム連携などを実現してきたおり、今回のNOW開発もN-CONNECTの一環となる。一連の取り組みは同社の「システムソリューション事業部」が支

えており、同事業部はITエンジニア9人を擁し、日々省力化や省人化につながるシステム、自動化設備などの独自開発を進めている。今回の「NOW」の運用開始によって、デジタルでの受発注は全受注の90%以上となる見通し。

